

# 四国旅日記

－文政五年 柳井津町小田家の旅－



# 目次

目次	1
解説	2
文政五年、小田氏一行の四国巡礼ルート	3
「四国八十八ヶ所霊場と遍路道概略図」	4
（愛媛県歴史文化博物館編『四国遍路ぐるり今昔』より転載）	4
凡例	5
四国順拝道中記	6



「四国順拝道中記」の表紙（上）と本文の例（下）

## 解説

### 「四国順拝道中記」について

当館蔵「四国順拝道中記」（柳井市金屋小田家文書898）は、江戸時代、岩国藩領柳井津町の小田氏が、文政五年（一八二二）二月八日から四月四日までの五八日間、四国八十八ヶ所巡礼に出かけた様子を記した旅日記である。

江戸時代の小田家は、岩国藩領の商都柳井津を代表する商家であった。柳井津町の町年寄役を務め、のちに大年寄格を仰せ付けられる。さらに江戸時代後期には、岩国藩への度重なる献金などの功績が認められ、岩国藩士（御手廻組・大組）に取り立てられた。

旅日記の表紙には「光倪」の名が記されている。記主と考えられる彼の名は、現存する小田家の系図では確認できないものの、時期的には、六代目小田六左衛門（光倫・富太郎、く嘉永三年十一月十二日）、もしくは分家にあたる新宅小田家の作十郎（光篤・千蔵、く天保十年）と推測される。

旅日記の記述からは、光倪は弥三郎と儀助との3人で旅していたことがうかがえる。日記中、弥三郎は「弥三郎殿」、儀助は「儀助」と表記されており、弥三郎は目上の人物、儀助は光倪の従者的立場の人物ではなかったろうか。

二月八日に柳井津を出発した光倪一行は、海路、伊予国三津浜に着く。その日、五二番札所太山寺に参拝したことを皮切りに、伊予、讃岐、阿波、土佐と八十八ヶ所巡りに出かけている。三月二十六日、

最後の五一番札所・石手寺に札を納め、八十八ヶ所巡りを成就させた。その後、道後温泉でしばらくくつろぎ、四月四日柳井津に帰り着いた。全行程は後掲にまとめている。

日記には、八十八ヶ寺を中心に、訪れた名所旧跡、街道、宿屋、各地での接待の様子、宿賃、米代、川や海の渡賃などが書き留められており、八十八ヶ所巡りの旅の様子がよくわかる史料となっている。八一番札所白峯寺を過ぎた所で見た縁結びの杉、八二番根香寺から八〇番国分寺までの街道を描いた図などもある。旅の途中では、岩国からの巡礼者や、知り合いの周防国玖珂郡新庄村の戸左衛門などに出会ったことが記されており、周防から多くの人々が四国巡礼に出かけていた様子が知られる。

なお、小田家の旅日記のうち、文政六年（一八二三）の九州旅行に関するものは、平成25年度の当館実践講座において解説し、すでにウェブサイト上で公開している。

### 実践講座での解説について

「四国順拝道中記」は、「四国旅日記を読む―柳井市金屋小田家文書―『四国順拝道中記』」と題して平成26年度山口県文書館古文書実践講座のテキストとし、これをすべて解説した。

担当した2班のメンバーは以下のとおり。

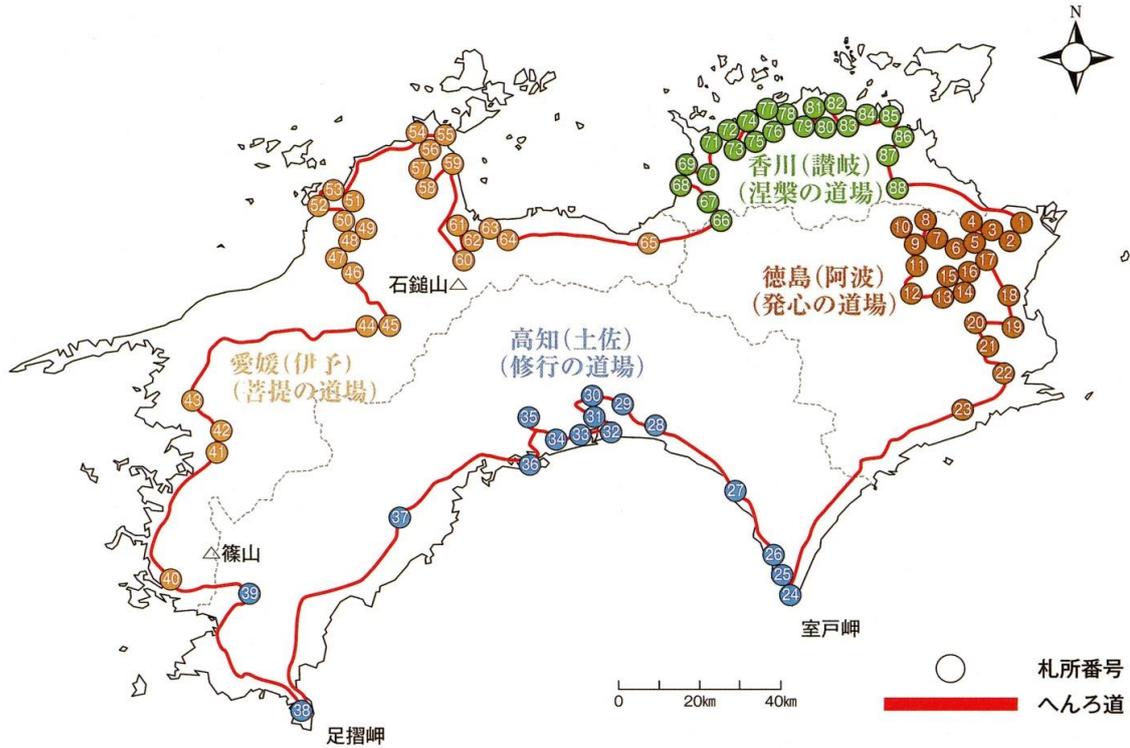
阿部和正・石井 勇・加藤敏郎・内藤玲子・中村はるみ・山田久子・山元利人  
〈サポート〉山崎一郎・和田秀作・吉積久年（山口県文書館）

文政5年(1822)、小田氏一行の四国巡礼ルート

月日	国名	参拝所	宿泊地	
2月7日	周防	柳井津登		
2月8日	伊予	三津浜着 52太山寺・53円明寺	和気浜村	
2月9日		—	菊間村	
2月10日		54延命寺・55南光坊・今治城下・56泰山寺	小泉村	
2月11日		57栄福寺・58仙遊寺・59国分寺	六軒屋村	
2月12日		60横峯寺	大頭村	
2月13日		61香園寺・62宝寿寺・小松城下・63吉祥寺・64前神寺	上島山村	
2月14日		—	三角寺村	
2月15日		65三角寺	平木村	
2月16日		伊予・讃岐	66雲辺寺・67大興寺	観音寺町
2月17日		讃岐	68神恵院・69観音寺・70本山寺・71弥谷寺・73出釈迦寺・72曼荼羅寺・74甲山寺・75善通寺	善通寺村
2月18日	金毘羅		金毘羅町	
2月19日	76金倉寺・77道隆寺・78郷照寺・丸亀城下		多度津町	
2月20日	79天皇寺・81白峯寺・82根香寺・80国分寺		国分村	
2月21日	83一宮寺・84屋島寺		牟礼村	
2月22日	85八栗寺・86志度寺・87長尾寺		前山村	
2月23日	88大窪寺		入野山村	
2月24日	讃岐・阿波		3金泉寺・2極楽寺・1靈山寺	金泉寺町
2月25日	阿波	4大日寺・5地藏寺・6安楽寺・7十楽寺・8熊谷寺	土成村力	
2月26日		9法輪寺・10切幡寺・11藤井寺	飯之尾村	
2月27日		12焼山寺	一宮村	
2月28日		13大日寺・14常楽寺・15国分寺・16観音寺・17井戸寺・徳島城下	徳島	
2月29日		18恩山寺・19立江寺	森村	
2月晦日		20鶴林寺	大井村	
3月1日		21太龍寺・22平等寺	木岐浦	
3月2日		23薬王寺	日和佐村	
3月3日		—	日和佐村	
3月4日		—	免許村	
3月5日	阿波・土佐		野根村	
3月6日	土佐	24最御崎寺	室津浦	
3月7日		25津照寺・26金剛頂寺	羽根浦	
3月8日		27神峯寺	伊尾木浦	
3月9日		28大日寺	岩松村	
3月10日		29国分寺・30善楽寺・高知城下・31竹林寺・32禅師峰寺	十市村	
3月11日		33雪蹊寺・34種間寺・35清瀧寺	高岡村	
3月12日		36青龍寺	井ノ尻村	
3月13日		—	影野村	
3月14日		37岩本寺	伊与喜村	
3月15日		—	間崎村	
3月16日		—	窪津浦	
3月17日		38金剛福寺	小江村	
3月18日		—	貝ノ川浦	
3月19日		—	宿毛町	
3月20日		土佐・伊予	39延光寺・40観自在寺	平城村
3月21日	伊予	—	岩松村	
3月22日		宇和島城下・41龍光寺・42仏木寺	則村	
3月23日		43明石寺・大洲城下	大洲	
3月24日		—	吉野川村	
3月25日		44大宝寺・45岩屋寺	熊野町	
3月26日		46浄瑠璃寺・47八坂寺・48西林寺・49浄土寺・50繁多寺・51石手寺	道後	
3月27日		道後温泉	道後	
3月28日		道後温泉	道後	
3月29日		道後温泉	道後	
3月30日		道後温泉	道後	
4月1日	—	道後		
4月2日	—	三津浜		
4月3日	—			
4月4日	周防	柳井津着		

※宿泊地は推定含む

# 四国八十八ヶ所霊場と遍路道概略図



徳島県	
札所番号	寺院名
1	霊山寺
2	極楽寺
3	金泉寺
4	大日寺
5	地藏寺
6	安楽寺
7	十楽寺
8	熊谷寺
9	法輪寺
10	切幡寺
11	藤井寺
12	焼山寺
13	大日寺
14	常楽寺
15	国分寺
16	観音寺
17	井戸寺
18	恩山寺
19	立江寺
20	鶴林寺
21	太龍寺
22	平等寺
23	薬王寺

高知県	
札所番号	寺院名
24	最御崎寺
25	津照寺
26	金剛頂寺
27	神峯寺
28	大日寺
29	国分寺
30	善楽寺
31	竹林寺
32	禅師峰寺
33	雪蹊寺
34	種間寺
35	清瀧寺
36	青龍寺
37	岩本寺
38	金剛福寺
39	延光寺

愛媛県	
札所番号	寺院名
40	観自在寺
41	龍光寺
42	仏木寺
43	明石寺
44	大宝寺
45	岩屋寺
46	浄瑠璃寺
47	八坂寺
48	西林寺
49	浄土寺
50	繁多寺
51	石手寺
52	太山寺
53	円明寺
54	延命寺
55	南光坊
56	泰山寺
57	栄福寺
58	仙遊寺
59	国分寺
60	横峰寺
61	香園寺
62	宝寿寺
63	吉祥寺
64	前神寺
65	三角寺

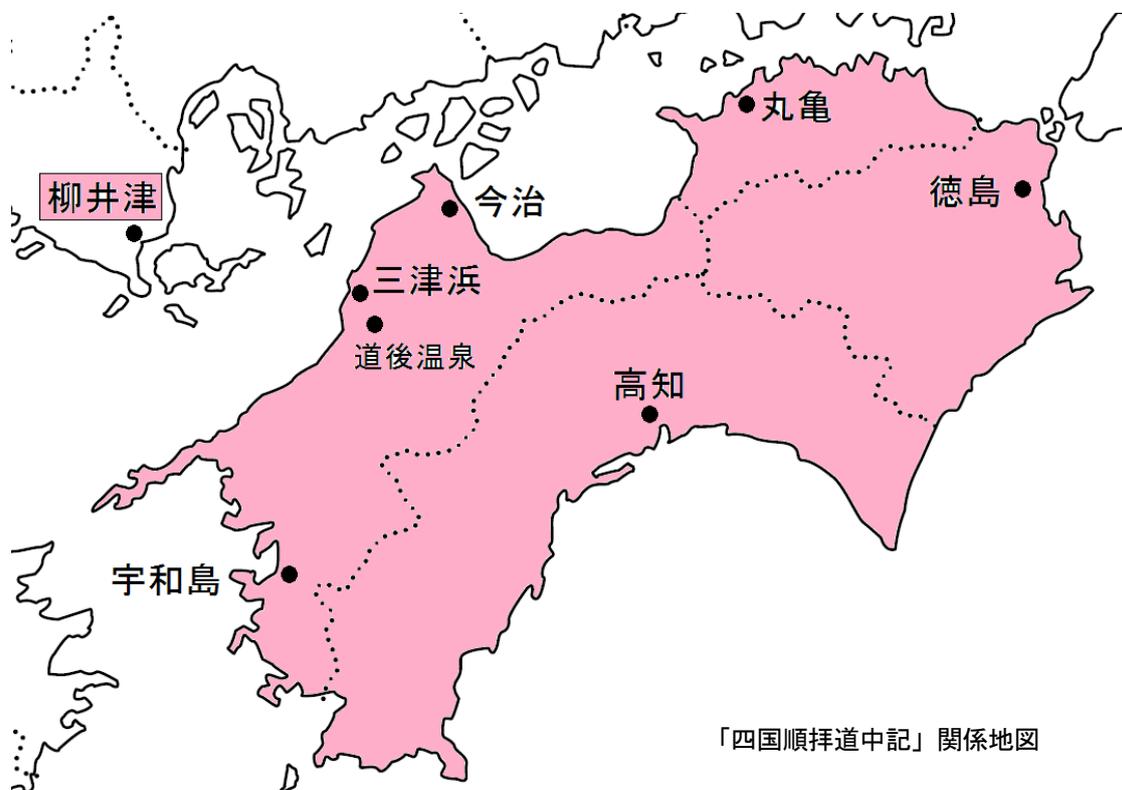
香川県	
札所番号	寺院名
66	雲辺寺
67	大興寺
68	神恵院
69	観音寺
70	本山寺
71	弥谷寺
72	曼荼羅寺
73	出釈迦寺
74	甲山寺
75	善通寺
76	金倉寺
77	道隆寺
78	郷照寺
79	天皇寺
80	國分寺
81	白峯寺
82	根香寺
83	一宮寺
84	屋島寺
85	八栗寺
86	志度寺
87	長尾寺
88	大窪寺

※本図は、愛媛県生涯学習センター「四国遍路のあゆみ」(平成13年刊)所収の「四国八十八ヶ所霊場概略図」をもとに一部加工した。

愛媛県歴史文化博物館編『四国遍路ぐるり今昔』(2014年)4頁を転載

## 凡例

- 一、当史料は、平成26年度山口県文書館古文書実践講座の受講生が解読したものである。
- 一、漢字は、原則として常用漢字を使用した。
- 一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。
- 一、適宜、読点および並列点を付した。
- 一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。
- 一、改行や割注は原則として原本のままとしたが、意味をとりやすくするため、改めた場合もある。
- 一、説明として加えた傍注は( )で示した。
- 一、本文右上に小活字( )書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。
- 一、難読部分については、読者の参考のため、該当箇所の写真を添付したことがある。



四国順拝道中記

①  
表紙



②

四国霊場道中附

文政五歳壬午の歳二月七日

文政五年  
(二八三)  
二月七日

柳井津出立

沖家室

当津出帆、船頭新市町嘉吉、  
夜四ツ時二沖の家室二留、翌

二月八日

伊予國三津浜

○八日順風ニ而正四ツ時二伊予  
(三津浜)  
三ツヶ浜着、船問や奴和屋重蔵  
方へ揚る、暫時休足、此方ニ而  
切手相調、八十文宛定、

覚

一防州柳井津 何野何兵衛

右之者当所所より船揚り仕、四国

遍路ニ参り申候、已上

(三津浜) 伊予三ツヶ浜間屋  
(ママ) 午四月八日 奴和屋十蔵 判

③  
同日まだ御日も高し、三ツ町より  
十八丁行、御門より八丁登る、

第五十式番

△大山寺

此次へ  
十八丁

本尊十一面観音

(接待、以下同じ)  
米御撰持あり

参詣、当寺大地山上、本堂前に

生木の地蔵尊、双またの竹有、

生木の地蔵  
二股の竹

御門前二汐満干の井あり、

汐満干の井  
名物蒟蒻

茶屋数々あり、名物蒟蒻

此御寺より十八丁行、

第五三番  
△円明寺

第五十三番

△円明寺

此次へ  
九里八丁  
本尊阿弥陀如来

和気浜村

平地、此御寺の側、和気浜村

善蔵方善言宿二預り泊る、

二月九日

太師堂

④  
米壺升七十式文、○同九日

堀江村を通りあわい坂大師堂

あり、柳原村、○北條町、町中二

川あり、過者あさなミ村、番所有

御番所

往來改め

二見浦

瓦焼き

菊間村

切手をあらたむ、大井村過者

浜道也、風景宜、二見の浦

とも可謂所也、此所二瓦焼

見物、夫よりあげ坂とて小坂

あり、此所よりキクマ村江三り

行て泊、宿青屋初治郎、

木錢十五文、米七十五文、此所

よろしき町なり、○同日、

村はつれに小川あり、山道を

少し行浜道二出る、過て立場坂、

此坂をとおらす下二沖江出る

二月十日

道あり、たね村、此所ハ百姓や

五六間あり、此村の氏神沖

ひね明神参詣、少し行て

小川あり、過て壺式軒茶屋あり、

此所ニて小盆飯、髮結の御

撰持あり、夫よりさがたむら、

大井村杯小村あり、過て新町、

よろしき町也、此所ニ小盆飯

香のもの、髮結御撰持あり、

夫より今わら村、田久間村、

段小むらあり、あがた村、

第五四番  
延命寺

第五十四番

△延命寺

本尊不動明王

おミ山、

夫より山道を少し行、

第五五番  
南光坊

△別宮

本尊大通智勝仏、

三島大明神也、

平地也、

当社ハ三しま宮の前札所也、

三島江七里の船渡し有之、

尤私共ハ三島江は参り不申候、

今日雨天ニ相成、今治御

城下町見物行、少し寄也、

夫より日吉村、馬越村、小むら有、

第五六番  
泰山寺

△泰山寺

本尊地藏菩薩

参詣、当寺平地、今日大寒ニ而

大霰ニて御座候、春よりの大寒と申事

二候、四五丁行、小泉村とまる、

小泉村

宿伊太郎殿善言ニ預る、  
米七十六文、至而叮嚀ニ而蒲団杯

二月十二日

甚よろしく、○十一日天氣、此村より八幡迄十八丁  
道ニ惣蛇川と言川あり、(倉社)いかなしむら、(五十嵐)  
八幡村、弐丁山へ登り、

第五七番  
石清水八幡宮  
榮福寺

(榮福寺)  
△石清水八幡宮 弐拾丁

本尊阿弥陀如来

參詣、上々茶や有、直ニ右下向道  
有、佐礼迄廿丁、夫より十丁位行  
大池あり、土手あし百間余、誠に  
大池なり、都而此辺入海如く、  
堤多し、過て坂を登る、

大池

第五八番  
仙遊寺

(作礼山仙遊寺)  
△佐礼山 壹里

本尊千手観音

本堂再建

当山本堂大破ニ付再建有之、  
瓦寄附いたし候、五百余年ニ  
成との事、本堂脇ニ茶店有、  
夫より御山を五六丁も下り、下向  
道あり、左手へ取下る、(新倉村)にや村  
小むら也、小鷹トウ神宮少し行、

吉祥寺小寺有、四五丁行松本町、  
干川有、国分村、

第五九番  
国分寺

△国分寺 六里

本尊薬師如来

当寺平地、よろしき御普請也、

明神社

此国分村より十八丁行桜井村、

行かゝりニ明神社あり、又浜、  
桜井村通れハ左り手ニ見へる、

法華寺

此村ハ通らず少し行て法華寺、

六軒屋村

山道ニ成ル、道よろし、壹里行て  
(六軒屋村)六間屋村ニ泊、宿日光屋新助、

金比羅住還

米七十式文、木錢十五文、ふとん  
十式文、此辺金比羅住還ニて

宿や杯至極よろしく、

二月十二日

○十二日出立、大千川有、夫より

臼井の水

(御茶迎)御来向の臼井の水あり、

ヒイラギ・松沢山也、楠村通て

新町、よろしき町之、此所ニ近日

芝居

(10)芝居始ると言、過て丹原町、

此所もよろしき町也、夫より八丁位

生木地藏

行、△生木地藏尊へ參詣

大戸町

茶堂あり、夫より新田村過て

大戸町、此所ニ宿を求メ、荷物

預ケ置キ、横峯山へ百丁の

打戻り致ス、尤打ぬけ之方

道法ハ近けれ共難所多し、

夫故ニ打戻り之人多し、町

より四五丁行前札所あり、

難所小川多し、

第六〇番  
横峯山

△横峯山 式里

本尊大日如来

①

当山奥院ハ石鉄山江六里八丁

有之、六月一日ニ御山アクト言

本社蔵王権現、横峯山ニ

雪御座候、本堂下ニ茶屋一軒

有あり、夫より百丁戻りて

大頭村中島屋甚蔵ニ泊、

米七十四文、木錢十式文、ふとん十五文、

風呂あり、○十三日出立、此所より

廿五丁行

第六一番  
香園寺

△香園寺

八丁

本尊大日如来

第六二番  
一之宮宝壽寺

△一之宮 半里

本尊十一面觀音

② 小松御城下町ヲ通りて此道ニて

小松城下

小瀬の逆遍路衆ニ逢候ニ付、晝狀

岩国迄相頼候、小道を行

第六三番  
吉祥寺

△吉祥寺 半里

本尊毘沙門天王

当寺平地、御門前ニ宿屋あり、

そば抔たべ申候、

蕎麦

第六四番  
前神寺

△里前神寺 拾里

本尊阿弥陀如来

当寺五丁の打戻り也、当山も

石鉄山の前札九里八丁奥の院江

有之也、当山本堂之左り脇ニ拝所

之水あり、麓ニ茶屋有あり、

宿も自由也、当山去年之事、

③ 御普請結構成就、否又々

普請成就

天火ニて焼候ニ付、只今借御殿

ニて御座候、御山之景宜敷、式三丁

下り納経所御成間抔結構

美々敷事ニ御座候、当寺より

雨降出し申候、夫より大川あり、

無銭渡し、大町よろしき

町なり、此所より西条御城下へハ

八丁の廻り故行き不申候、

岩国の遍路  
女中連

此道ニて岩国の遍路女中連同行

六人ニ逢申候、福竹村、夫より

上島山村

かみしま山むら二泊、幸右衛門方、

米七十六文、木せん十五文、風呂あり、

二月十四日

○十四日出立、天氣ニ相成、大井村

此所之庵二者六字の名号撰持

松

有、よろしき松あり、夫より中むら

⑬

(角野村) 国領村  
すみの村、こくりゆう村、此間

原あり、池田原といふ、長野村、

(関村)  
せき村此間川有、うへのむら、

(土居村)  
土井むら、小林村、つねむら、

(野田村) (長田村) (寒川村)  
のだ村、おさだ村、さむ川むら、

(中之庄村)  
なかの庄村よろしき、是迄の村

小むらなり、此村迄金ひら往還

ニて道至而よし、此所より右江

芝居

取山道ニ成、右中の庄村ニ芝居

涅槃意

杯居申候、今日ねはん忌ニて賑敷

道標

此所より五十丁の立石あり、今日

何分三角奥の院迄参詣仕り

通夜之覚悟ニ御座候得共、

最早御日も七ツ時ニ御座候ニ付、

御札所より式拾丁手まへ百姓や

⑭  
にて善言、宿乞を受泊、米七十四文

○十五日式十丁登り、

二月十五日

第六五番

三角寺

△三角寺 五里

本尊十一面観音

当地山上、前二茶堂あり、当寺

奥ノ院江ハ是より五十八丁の登り也、

本堂右手より登る、誠二山の峯を

伝ひ行、休所無之、五十丁位行

庵あり、是ニ荷物を預り、是迄

ハ打戻り之場所也、此庵の

前二雲辺寺道あり、扱此庵より

奥の院江ハ八丁也、是より誠々

井の底二入が如く、谷底へ

おり込事深々たり、難

⑮  
有霊場也、通夜人多し、

然共私共ハ今日いまた四ツ時ニて

御開帳

通夜の間者あしく、今日ハ〇涅  
槃忘ニテ参詣人賑々敷事ニ御座候  
通夜致ス時ハ夜五ツ時ニ、〇乍恐  
大師四十二才のやく危除よけ御開帳  
有と申事故、聞合候所、百廿銅

ニテ何人百人ニても御開帳有之との  
事故、押し申候、此所旧跡  
しげきを恐れ略ス也、扱

八丁登り戻り荷物を請取、  
雲辺寺へ行、奥の院より

雲辺寺迄五里なり、誠々  
山の峯を伝也、一昼村、夫より

平山村へ出る、奥の院より是迄  
山路也、茶屋あり、是ヨリひらき

平木村

村江壱り半、今日まだ御日は  
高しといふ共、先々宿屋

なし故ニ此村ニ泊、平木村  
角治ニ、米七十八文、木錢十六文

ふとん十式文、此宿ニて雲辺寺  
江の近道聞申候、此村ニて尋て

二月十六日

道標

よし、〇十六日出立、十五六丁  
行、左りへん路道の立石あり、

是を右ニ取山江登る也、然共

此方近道の上ニ難所少し、

又七り五丁の坂なし

と申事ニ御座候、山の峯計

を越行也、迷道多し、此道ニて

古郷(救懸)の咄し致し候、是より手前ニ

雲辺寺へ三りと申所ニ旧

跡あり、下山村と申所ニ〇常

福寺と申寺あり、是ハ大師

椿の御杖を立置れ候所、

其儘生木ニ成、今の世迄も

栄木と成て有と言、頃日花盛り

なり、塚あり、桜も盛りニ而

美事、前ニ茶屋もあり、夫より

三り行、坂計也、漸々本堂

迄登り申候、難所也、是よりまへ

根木尻坂

阿波・伊予・  
讃岐国境

根木尻坂、阿州・予州・讃州の

三ヶ国の堺なり、

第六六番

雲辺寺

△雲辺寺

式里半

本尊千手観音

当寺ハ地中ハ讃州なれ共、御寺ハ

常福寺

御開帳  
芝居

阿州より造営し給ふと言、

今日より七日之間、当寺宝物の

御開帳あり、芝居杯居申候、

参詣人多し、賑敷事也、是より

山の峯計通り行、誠二高山

ニて四方風景よろしく、六十丁

の間、難所の下り急成坂也、

大師堂

下り詰二大師堂あり、岩国の

同行二逢申候、此堂再建最中

ニて御座候、是より道平地二成

（粟井村）  
アハ井村、べつそ之村、辻むら

過て、

岩国の遍路衆

第六七番  
大興寺

（小松尾山大興寺）  
△小松尾寺

一里

本尊薬師如来

参詣、二里行、此間二原村、

池の尻村、しゆさく村過て

観音寺町、此所よろしき

町也、段々善言之宿多し、

此町之中程の間屋広島や

二月十七日

新四郎二泊、米七十式文、善言

二付、木ちんなし、○十七日

第六八番  
神惠院

出立、此町を通り橋を渡り、

（七宝山神惠院）  
△琴弾八幡

二丁

本尊阿弥陀如来

当寺御山より観音寺町見下し、

右手二海を見晴し、風景

よろしく、有明の浜、象のはな

と申石あり、此所二十二景有

と言、夫より御山を二丁下り、

有明の浜  
象のはな  
十二景

第六九番  
観音寺

△観音寺

壹里

本尊正観音

庭園

此寺も美敷、少し山、庭見事く、  
夫より川端を伝ひ行、

（註）

第七〇番  
本山寺

△本山寺

三里

本尊馬頭観音

（比地大村カ）

平地、当寺茶堂二而肥じの大村

（下写真参照）  
徳ぜんより餅三つ撰持あり、

夫より小村多し、真念本二

委敷有ニ付略之、山路なり、

二り程行、鼓の地藏庵有、

此庵ニて赤飯、香のものセつたい、

髪結もあり、此石地藏尊ハ

鼓の地藏庵

有弁真念著  
「四国遍路  
道指南」



大師の御作と申事也、夫より  
少し行、谷二登る、

第七二番  
弥谷寺

△弥谷寺 一里

本尊千手観音

開帳

山上、当寺大師御作之石仏数々有、  
岩屋御開帳有かたき事也、

② (下記真参懸)

其外靈意あげて難言そへ、

大師御学文所岩屋あり、

夫より二王門へ戻り荷物をとり、

左りへ行、(禪殿村)ひどの村、井の上村、吉

原村善言宿多し、是より

万陀羅寺順なれ共、出釈迦寺

より道のり能二付札納る也、



第七三番  
出釈迦寺

△出釈迦寺 三丁

本尊釈迦如来

当寺山上也、

第七四番  
曼荼羅寺

△曼陀羅寺 廿七丁

本尊大日如来

此寺平地、御寺より西に三丁程行、

水葦の丘

(水葦の丘)  
水くきのおかとして西行法師の  
すゝ給ひし庵の跡あり、

② 其所の御歌に、

山里に浮世いとはん

友もかな

くやくし過し昔かたらん

○五岳山過て、七仏石大師

御作なり、御開帳あり、

過て、

開帳

第七四番  
甲山寺

△甲山寺 十丁

本尊薬師如来

第七五番  
善通寺

△善通寺 弍里

本尊薬師如来

此御寺大地にして美々敷事也、

大師御誕生所、(御開帳カ)御開作あり、

御寺の左り脇二内田や与介

迄漸々暮五つ時ニ参り泊る、

二月十八日

② (旅籠)百五十文、はたご、○十八日出立

道よし、七り五丁行、

金毘羅

○金毘羅様へ参詣、今日ハ

二月十九日

此町二一宿、塩飽屋藤藏江泊

百七十文、はたご、○十九日

十五六丁行、赤飯、味そ汁、セツ(味噌汁)

たいあり、夫より金そうじ村(金蔵寺村)

第七六番  
金倉寺

△金倉寺

三十丁

本尊薬師如来

平地なり、

第七七番  
道隆寺

△道隆寺

一里半

本尊薬師如来

中津村、塩屋むら、丸亀御城下、

右道りふじにて、米式合、香の物(道隆寺)

三本、銭八文、撰持あり、夫より

道よし、

第七八番  
郷照寺

△道場寺(郷照寺)

一里半

本尊阿弥陀如来

丸亀城下

丸亀御城下平山町二而赤飯、香

のもの、髪結のセつたいあり、

夫より御寺へ参詣、少し行、宇足津

町、此所二泊、葛屋彦兵衛

善言宿二預る、米七十五文、

当家薬種屋商売にて御座候、

多度津

二月十日

○二十日出立、(坂出村)

塩竈

塩竈あり、坂出村北西庄町、

第七九番  
天皇寺

△崇徳天皇(天皇寺)

一里半

本尊十一面観音

但し、金ひらよりハ此辺迄ハ道よし、

当寺より白峯迄壱り半あり、

当寺より国分寺へ順なれ共、先々

遍路坂と申て大き坂ある故

此坂越ぬけ道也、当寺より

下向道、左り取、白峯と相尋

可致事、高屋村過て半道

程行、坂道二成、

第八一番  
白峯寺

△白峯寺

五十丁

本尊千手観音

此寺内至而広し霊場なり、

拝所数々あり、頼朝公塚、

鎮西八郎塚、西行法師月山、

拝所到る所あり、是より

根来寺江行、此道之左り

二児の嶽、チゴ百余丈の大嶽有、

稚児の滝

(8)

縁結びの杉

又其脇二馬ヶ嶽として同断

有、是ハ白峯寺の左り脇ニあり、

十四五丁行、左りニ縁結びの

杉あり、(下図参照)

右松原の山中ニ有之、根来寺打

戻りの場所ニ付、兼而道ニ二軒

茶店あり、是へ荷物ヲ預ケ

合印ヲ取、御寺へ参詣ス、今日

誠ニ大風ニテ、其上山上ニ付、笠も

着られぬ位の事ニテ込入り申候

第八二番  
根来寺

(根来寺)  
△根来寺 三十八丁

本尊千手観音

夫より右之茶屋迄戻り荷物受取、

但シ右茶屋より国分村江ハ四十丁有之、

此所へ国分村の宿やより式三人も

留メニ出申候、夫より山を下る、

右手ニへんろ坂見へる也、併

此方の坂も難所也、

漸々暮七ツ時ニ国分村へ下り、

直様御札納申候



第八〇番  
国分寺

△国分寺 五十丁

本尊千手

当寺平地、大地也、御寺まへ

国分村へ泊ル、嘉兵衛、米

八十四文、木ちん、汁、ふとん共二十四文、

二月二十日 ○廿一日出立、壱り半行、大川

あり、ゑんざ村宿やあり、

過て一の宮町、

第八三番  
一宮等

△一之宮 次へ三里

本尊聖観音

当寺内ニテ浅野村より大豆飯

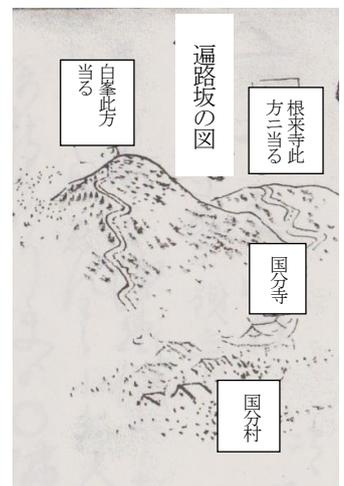
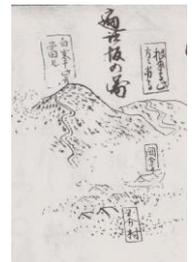
したし物、ゑんとう、小盆ニ入て御

撰持あり、夫より○仏生山へ

参詣、当山ハ高松公御建立、

美敷御寺也、御門数々有

夫より門前へ出、町あり、宿や



多し、半道行、高松町

(31)

より赤飯、(煮しめ)にしめ、又大豆飯、

にしめ二ヶ所の御撰持あり、

夫より村々数々あり、私共ハ高松

城下へハ見物ニハ行不申候、

夫より式里程行大師堂あり、

是にて高松城下よりいりもの

撰持あり、女中若手杯

面白御座候、(湯元村)かた本村、是より

屋島寺へ十八丁の登り也、

第八四番  
屋島寺

△八島寺 (屋島寺) 一里

本尊千手観音

当地大地山上、茶堂にて飯、したし、

撰持有、茶の所ハ甘茶にて御座候、

此辺源平戦場古跡、血の池

(32)

杯と申ているくゝの所あり、

此寺道坂にて城下目之下ニ

相見へ御城見事、海ヲ受テ

あり、夫より暫行、次信の

石峯あり、(石橋)右八島寺の納経所

にて古跡、(縁起)ゑん記有之候申事、

源平古戦場  
血の池

洲崎寺

下り二小豆島より出撰持餅二ツ

あり、洲崎寺にて赤飯、香物、

撰持あり、此寺前にて宿を取

泊、名まへ知らず、米八十三文、木ちん

二月二十日

十五文、○廿二日出立、右宿前の

寺、昨日之所にて又々餅式ツ、香

のもの、(小豆)せうづ、唐いも撰持有、

此いもを弥三郎殿手拭に包ミ持れ候、

少し行、餅式ツ撰持あり、小豆島

よりと申事、(牟礼村)むれ村、夫より

(33)

坂を登る、

第八五番  
八栗寺

△八栗寺 一里半

本尊正観音

上山、夫より廿五丁坂を下り

三十丁計行、(志渡)志度町二而

備前より檮符

備前より餅式ツ撰持有、

第八六番  
志度寺

△志度寺 一里

本尊十二面観音

当寺平地にして寺内広し、

夫より長く村にてかんざき村より

御飯、かんその汁にて出撰持有、  
髪結もあり、

第八七番  
長尾村

△長尾寺 四里  
本尊正観音

当寺内にて近村よりうち村

より餅式ツ、どぶ汁、出撰持

あり、又そうめん、髪結あり、

三人なからあい申候、儀介頭を切ら

れ申候、当寺門前町家よろし、

宿や多し、金ひら往還かと

いふ道、此町宮西村と言、是より

壱里行、前山坂の手まへニ

泊る、百性や折々有、米八十八文、

丸亀の同行

木ちん十文、今日ハ讃州丸亀の

金兵衛・松次郎殿と申仁式人同行、

丸亀より跡二なり先二なり道

連二成申候、今日もすでに

此宿江参り候所同宿二相成り申候

御互ニ昨日よりの餅撰持沢山二

持合居候二付、一同ニ御ぞう煮ニシテ

たべ申候、夫ニ付米ハ壱升(炊)タク、

二月二十三日

○廿三日出立、是より三里の間

山路也、右宿より直二坂二成る、

前山坂と言、夫よりがく村、爰に

ごま山とて大師御すほうの所有、

経座共いふ、過て小坂あり、

山坂谷々計也、

第八八番  
大窪寺

△大窪寺 五里

本尊薬師如来

山上茶店有、夫より谷合三十丁位

下り、白鳥道江の別れ道あり、

二里半行にウノ山村、二里行

山中計也、道の左りわきに庵あり、

此所ニて赤飯、香のもの撰持あり、

髪結もあり、三人あい申候、然所此所

庵守、最早御日も暮相に相成

白鳥迄ハ四十五丁あり、何分今

夜ハ御善言ニ御留メ申と被申候

候二付、有がたく存、此庵にて

一宿仕候、今日之御撰持特別而事

広く御座候、髪結等も男の人江ハ

男の髪結、女へハ女の髪結、都合凡

十五六人も世話人居申候、此所の

御庄屋と相見へ支配被致申候、

此庵守六部修行之御人にて

万事御叮嚀ニ被成、其外多人數

へんろを御留メ被成申候、皆々

<sup>(存)</sup> 仕合にそんし候、米九十もん、ふとん廿文、

善言ニ付木ちんなし、ホラ

キヨウ荅御建立ニ付、小玉少し先祖

の為寄付いたし候、○廿四日

出立、此所より四十五丁行、

○白鳥大明神参詣仕候、

此所町あり、宿や多し、よろしく

町也、此所天下御領と言、夫より

<sup>(引田)</sup> ヒケタ浦、よろしき町家多し、

此所町中ニ大師堂あり、是にて

大美村より小豆飯、にしめの

撰持あり、夫より少々行浜道江

出る、軒茶やあり、浜辺ニ立石

あり、左り鳴戸道とあり、私共

<sup>(3)</sup> 鳴戸へハ行不申候ニ付、右へ取、大坂越

の方へ参り申候、此方より行、登れハ

三ばん金泉寺へ出る也、扱又鳴戸へ

まわるときハ壹ばんの御札所へ

讃岐・阿波  
国境

出ると言也、○夫より大坂越

十八丁の登り、誠ニ石計りにて

入り入申候、此所讃岐・阿波

の国境あり、右坂の

峠ニ茶店老軒あり、休足いたし、

下り三十丁行て阿波の国の

御番所にて往来扱又揚り

切手御改有、此所にて半紙を

一まい出し、阿波国勘過切手ヲ

モロウ也、夫より大坂村、此所にて

赤飯、香の物撰持あり、過て半道

<sup>(3)</sup> 位行、途中にて人形芝居見物

いたし申候、信功記信長公道行段

面白御座候、夫より八丁行、

△金泉寺

本尊釈迦如来 廿五丁

平地也、唐門有り、金せん寺町

あり、此所二宿を取、荷物を預ケ

極楽寺、靈山寺、此ニヶ寺迄打戻り

三十五丁位有、

△極楽寺

本尊阿弥陀如来 十丁

白鳥大明神

二月二十四

大師堂

道標

第一番  
靈山寺

△靈山寺 一里半  
本尊釈迦如来

此三ヶ寺之内道よし、<sup>(鳴戸)</sup>鳴戸へ廻る時ハ此御札所より順ニ札納ると言、此辺ニもよろしき

宿あり、扱右金泉寺町宿迄

夜六ツ半時ニ漸々帰り泊る、

米八十六文、木ちん廿文、ふとん

十五文、

二月二十五日

○廿五日出立、三番より一里行、此道の間之なとふ村ニて赤飯<sup>(那東村)</sup>

汁の御せつたいあり、夫より、

第四番  
大日寺

△大日寺 十八丁

本尊大日如来

当又黒谷寺ともいふ、六丁の打戻り

なり、夫より十八丁行、

第五番  
地藏寺

△地藏寺 一里

本尊地藏菩薩

五百羅漢

当寺後ニ五百羅漢江参る、<sup>(七條村カ)</sup>引野村  
<sup>(神宅村)</sup>夫よりかんやけ村、七ちゆう村、ひきの

村過て、

第六番  
安楽寺

△安楽寺 十丁  
本尊薬師如来

第七番  
十楽寺

△十楽寺 一里

本尊阿弥陀如来

当寺漢頂ニ付賑々敷事、参詣之人

老若男女おびたゝ敷事也、

第八番  
熊谷寺

△熊谷寺 十八丁

本尊千手観音

山上三丁打戻り、麓ニ茶堂、扱又

宿やあり、此儘泊る、米八十六文、

木ちん三十式文、但ふとん、汁共ニ、

二月二十六日

○廿六日出立

第九番  
法輪寺

△法輪寺<sup>(法輪寺)</sup> 廿五丁

本尊釈迦如来

第一〇番  
切幡寺

△切幡寺 一里半

本尊千手観音

当寺迄阿州十里十ヶ所と申て

十里之間二十ヶ所有と言、

大野しま村、あハ島村、此間ニ

吉の川と言大川あり、切幡町より

吉野川

半道余りあり、御国主より

御善言渡し、無銭渡しなり、

三四丁行、西追村、此所より半道

計り行、

(38)

第二番  
藤井寺

△藤井寺

三里

本尊薬師如来

当寺少し山上、茶店老軒有、本堂

之左り脇より焼山寺へ之

道印あり、直様坂道二なる、

五十丁登り、老軒宿やあり、

此所二泊、米九十八文、木ちん三十文、

ふとん共二、讃州之同行と此所二而

又同宿仕候、但し此所より半道

行、柳の水庵あり、され共此

庵ハ入込三付、此所二泊り申候、

○廿七日出立、柳の水江参詣

夫より一本杉とて山の峯二あり、

此木の根二大師御杖の跡と言○石二

数々穴あり、此所二も庵あり、

是より又三十八丁の難所なり、

夫より谷底へおり込、家村あり、

(41)

第二番  
焼山寺

△焼山寺

五里

本尊虚空蔵菩薩

当寺奥の院へハ是より八丁之登り、

私共ハ参り不申候、本堂近く

御再建二付、そぎ寄附致候、

夫より大門へ出ル、是より十二丁下り

衛門三郎庵

衛門三郎の庵あり、并二

大師様衛門三郎病死之跡へ

印ニ立おかれし杉、今枯木と

成て、地藏堂ニて御守ニせられ申候、

夫よりさうち村、あかわ村、ひろの

むら、入田村、此所之河原ニて

赤飯、香の物撰持あり、夫より

二本木之茶屋、誠二右之川ハ

道々四五へん渡るなり、焼山寺

より此辺迄ハ山路谷合坂なり、

川あまたあり、今日右入田村ニて

儀助笠を忘れ候所 此所迄ハ何の

案も不附居候所 此所ニ付、思イ出

後悔致候、帰るも半りも有之

候へハ先々ニ而相求候覚悟ニテ

参り申候、右笠の不思議明日に

記ス也、夫より一ノ宮ヨリ十二丁

手まへ加部市蔵ニ泊、木ちん

十五もん、ふとん十五文、米九十四文、

至而叮嚀ニ御座候、仏壇より

鐘を出され入り入申候、○廿八日

雨天ニ相成申候、四ツ時ニ立、追々天氣ニ相成申候

第二番  
大目寺

△(大目寺)  
一之宮

十八丁

本尊十一面観音

是より道よし、此間川有り、

当寺ニテ昨日之笠同行衆ニモライ申候

第一四番  
常楽寺

△常楽寺

五丁

本尊弥勒菩薩

第一五番  
国分寺

△国分寺

十八丁

本尊薬師如来

是より観音寺へ道よし、

④

第二六番  
観音寺

△観音寺

十八丁

本尊千手観音

第一七番  
井戸寺

△(井戸寺)  
井土寺

四里

本尊薬師如来

寺内ニテ赤飯、香の物撰持あり、

当寺ハ町内ニ有之、是迄ハ

五里五ヶ所と言、此町ニテ

御わけ相済し、夫より壱り行、

蔵本村大師堂ニテ香の物

式本撰持あり、過て徳島

御城下見物、町はなれニ

金比羅社

○(金比羅社)金比羅社あり参詣、美敷

宮居なり、御山より御城下

町、入川等一眼二見へ、よろしき

所なり、夫より家中筋を行て

又町家へ出る也、式軒屋町、入田や

亀之介へ泊、米九十四文、木せん廿文、

ふとん三十文、○廿九日出立、セみ

がはな、二軒屋村、此間にさめた

川橋あり、西ツカ村、此所ニテ

いり米、香のもの撰持あり、

二月十九日

夫よりしほ村、田野村過て御山へ  
五六丁之登りなり、

第一八番  
恩山寺

△恩山寺 三十丁

本尊薬師如来

立江村より小キ橋六ツ渡るなり、

第一九番  
立江寺

△立江寺 三里

本尊地藏菩薩

夫より立江村二戻り、御わけ杯  
相済申候、此所よろしき宿

多し、今日当寺より

雨天ニ相成申候、星谷むら、

此間半里川端を行、夫より

森村、今日いまだ八ツ半時ニ

御座候へ共、鶴の奥の院漢頂（灌頂）ケ

滝来向拜し度候ニ付、此所より

七十五丁有之、此森村ニ泊る、

よろしき宿有、此所より

本寺奥の院へのわかれ道あり、

米九十文、木ちん廿文、ふとん三十文、

今晚肥州の夫婦連同行と

同宿仕候、○晦日出立、扱

二月晦日

肥州の夫婦連

御来迎

奥の院へ参る時ハ此村ニ荷物

預ケ置と申候へ者、儀介ハ本

寺迄参らせ待せ申候、先右之

宿より川端を通り行、迷

道多し、問てよし、

三十丁計行、かつら川行戻り、

渡しちん式文、此所も宿やあり、

道谷々川々多し、餅茶店ハ

折々有之也、夫より漢頂（灌頂）ケ滝

迄行、正辰巳之刻、弥御来向（迎）慥

拜し難有事ニ御座候、夫より

三丁登り不動像堂あり、大師

御作十式文開帳、是より廿丁登り

奥の院の前札所あり、此所ニ而

奥の院岩屋（切手）禪定の輩ハ

五十五銅ニて手引切てをもらふ、

私共ハ禪定ハ致し不申候、扱是

より奥の院迄又々坂八丁計

登り参詣仕候、禪定の輩ハ

此所ニ而白（白紫束）将束を着かへ手引人

を連れて参り申候、扱不動堂迄

下り候所、最早今日実ニ御来向

拝し、其外拝見所数々

致し、時刻も八ツ時ニ相成申候、

扱今日ハ右打戻り之場所ニ付、

(82)

おわけ杯も皆荷物ニ附置候

ニ付、腹合すき候へ共致方無之候所

少々下り壺軒やあり、是ニて御

飯を乞請安心致候、扱々

難渋成事ニ合申候、此後參詣之

人柄ニも荷物ハおき候 而もおわけハ

是非持參スル事也、夫より

かつら川迄戻り、此所ニて鶴林寺

道と相尋べき事也、是より川渡り、

鶴の御山へ十八丁の誠ニ立板之

如く急坂あり、漸々七ツ半時ニ

御寺迄參り御札納申候、此所

ニ茶屋壹軒あり、随分宿も致由申候、

(83)

△鶴林寺 一里半

本尊不動

当寺大寺ニして三十の荅あり、

夫より御山廿丁下り大井村ニ

泊、米九十四もん、木ちん十三文、ふとん

第二〇番  
鶴林寺

三月一日

十五文、〇三月朔日、少し行川あり、  
国主より御差定て無錢渡也、

御高札ニ曰、此川船渡し無錢可為

者也とあり、渡り上りニ大師堂

あり、御札壺枚納申べく事也、

夫より直三三丁之坂有、谷川多し、

△大龍寺(天龍寺)

本尊虚空蔵

二里

此寺も御祈願所也、物惣輪塔も

あり、廿五丁下り龍の岩屋

あり、穴禪定の場所也、是まで

休所なし、誠ニ御山之樹木

こもり深山也、凡三十三丁計下り

アセビ村宿やあり、おね坂過て

あらたの村此御札所平地、

△平等寺

本尊薬師如来

五里

夫より月夜村、但此村名子細あり

尋ね問ふべし、此所ニ大師

御腰掛石月移しの庵あり、

少し下りかね打坂、さかセ川、

第二一番  
太龍寺

第二番  
平等寺

岩国今津の  
同行一人

小野村、まつ坂過て此間にて  
盆飯、香の物御せつたいあり、  
(田井村)  
たい村とま越坂、是迄二已上

坂五つ越申候、坂上にて岩国今津  
の百姓市右衛門・龜藏と申人同行  
式人にて御座候、同国之人柄にて  
なつかしく思イ同心いたし候、

此坂上より沖を見晴し左手二

紀州地と相当かすかに

見へ申候、四方を見晴し

(下等真参懸)  
西国覚候、坂下りて直二木岐浦

此所よろしく宿や多し、

⑧

山本や八郎兵衛二泊、米九十文、

木ちん十五文、ふとん十五文、今晚

右今津同行と同宿仕候、此所

よろしき湊あり、○三月二日

おほ坂越て日和佐村、宣敷

村なり、町端二川有、あり

橋也、

△薬王寺

廿二里

本尊薬師如来

少し山上、扱昨夜一宿之木岐浦

第三番  
薬王寺



より此日和佐村迄二里也、

時刻八四ツ時二御座候、扱此所之

宿二申候者是より先の宿

(全岐)  
麦の浦と申所、此間廿一日二

出火にて一軒も残らず皆焼候二付、

宿や一向二無之、是より先二八六里

計参らね八宿無之と申二付、

得と相考候所、願ハ難渋の所にて

節句致スよりハと申候、扱又段々

外々の同行も泊り、此所にて節句

致スべきよし申候二付、今日いまだ

四ツ時二御座候へ共、此御札所之下

平兵衛殿方泊り休足致シ申候、

米九十文、木ちん十五文、ふとん十五文、

○三月三日右同家二節句二付

逗留致申候、皆々無恙を

⑧

悦し歎び申候、扱今津同行、

市右衛門・儀介式人、町方ほうしや  
(報謝)

修行二出申候、私・弥三郎殿・今津之

龜藏三人ハ此村の在方江修

行二出仕勤メ申候、十軒相つとめ申候、

三月三日

三月四日

今日節句ニ付、ひし餅、あん餅

沢山ニもらい申候、弥三郎殿手まへ

町方へ式朱両替ニ出申候所、彼ノ

両かへ屋ニひし餅沢山ニ半紙ニ包

もらい申候、○同四出立、三里行て

東麦浦川向ニて小盆飯、ひじき

あへ物、髪結の御撰持あり、

西麦の浦町ヲ通り、此所廿一日ニ

丸焼之所ニて哀れ成なり、

夫より坂を壱つ越えして八坂

八坂の難所なり、誠ニ坂を

登りて下れハ浜也、沖ハ唐海

南ニ当ル、但シ汐干の時有之、

八坂の内浜辺伝ひニ通らるゝ

所もあり、岩穴の通りぬけ

行所も有、此所急てせらず

数々用心あるべし、但し始の坂

より三十丁計行、庵あり休所也、

アサカ浦此所町宿あり、夫より

三十丁計行、めんきよ村、

此所ニて赤飯、香の物、髪結

撰持あり、此所百性や

三月五日

彦左衛門之善言ニ預り申候、

米八十八文、ふとん十五文、○五日

壱り行てシ、喰村、七丁行て

阿波の国御番所、入切手改

差出し候事、夫より三十六丁の

坂あり、此坂を大坂峠と言也、

是を下れハ国境なり、土州かん

の浦御番所有、往来揚り

切手御改有り、切手出るなり、

切手のうつし

防州玖珂郡 柳井津 何兵衛

一遍路卷人

但、三月五日甲の浦東股於御

番所ニ相改、今日より三十日限松

尾坂江参着之筈

右之通り委細申合候条、於村々ニ

猶又入念相改可被通候、尤札所

順路之外ハ堅御法度之旨

申聞候也 小南権六判

午三月五日

甲の浦より松尾坂迄 順路道筋庄屋衆中

野根の昼寝

右之通りニシテ切手を受、半紙式まい位いとじそへ壺面ニシテ、毎日泊り宿か庄屋所ニ而日附ヲ取候事、  
十丁計行、白浜町、夫より式里行て(野根村)野祢村、此所のねの昼寝と言伝也、  
少くも早くても宿ヲかり休足

② 之所と申候へ共、是より先壺り半行

飛石の庵、近年建立有之二付

近年昼寝と申事も止之候と申事也、

夫二付野ね村より式丁行、川(野根村)

渡りちん四文、渡り上り二番所

あり、日附入切手御改あり、夫より

直二坂を越て、聞伝ふ飛石

はね石の難所あり、ごろく石ハ

冲唐海大浪に小石を浜へ打

あげ、其石の引汐シホニころく

落る音なり、此所より壺

里半行庵有、是二泊候、米

九十八文、木ちんなし、其代り二老人まへ

③ 瓦を式まい宛廿文寄符いたし候、(寄付)

○六日雨天、出立、壺り半行

大師堂あり、此所より東寺へ

三月六日

飛び石跳ね石

放れ駒  
岩屋

五りの塚あり、是より八道よし、(佐喜浜村)崎の浜村、野祢村よりは迄、(尾崎村)四里也、おさき村、かぶか坂村、(稚名村)しるな村、かみみつ村、此辺浜道也、はなれ駒沢山ニ居申候、  
廿丁程行、岩屋あり、おくへ入事十七八間、高壺丈、或ハ三四丈、広サハ式三間、或ハ五間、  
太守石をうがち五社建立ありと申事也、大神宮

愛満権現

大師水

金石

女人堂

④ 愛満権現也、夫より式丁行  
大師御加持の水あり、又壺丁行て金石あり、珍敷名石也、  
此石を小石ニてたゞけバ、かねの音する也、夫より壺丁行女人堂あり、此所女札所也、小岩屋有、  
男道右へ行、女ハ左り、浜辺を通り七八丁行茶屋ニて待合所あり、扱男道東寺へ六丁之登り坂也、今日ハ誠ニ朝より大風雨ニて込り入申候、

第二四番  
最御崎寺

△東寺 一里

本尊虚空蔵菩薩

夫より八丁下り茶やあり、此所にて

女中八前札にて仕まへ此所迄参り

待合所也、宿やあり、五六丁

計行、津路浦、よろしき町なり、

夫より三十丁行、室津浦、此所二

泊る、御札所下右脇、和泉屋

貞介方米九十六文、木ちん

十文、ふとん廿四もん、尤風呂ハ

なし、今日最早日暮二

御座候二付、御札明朝納申候

覚悟にて休息仕候、○七日出立、

雨天、

三月七日

第二五番  
津路寺

△津寺 一里

本尊地藏菩薩

御札納、扱此所二土州の名君

御免細工人御座候、私共小硯を

土産ニ相求申候、夫よりうき

津浦、此町を過て西寺へ

小硯

女人分れ道あり、女人左り二行

浜辺を通り前札所あり、

過て少し行待合所あり、

扱男右へ行八丁位坂あり、

第二六番  
金剛頂寺

△西寺 七里

本尊薬師

待合茶屋

御山より六丁下り、男女待合ス

茶屋あり、夫より吉良浦町

あり、宿やあり、此所にて御わけ

相済申候、夫より羽根浦、此所

之善助二泊、米百文、木ちん十文、

ふとん十六文、誠ニ大雨にて

込入申候、○八日出立、川を

渡り中山坂三十丁登り、此坂

を下り浜辺二出、此所をは

ね石と言伝と申事なれ共

いわれ知れず、なわり浦村、

夫より川渡六文、田野浦町

よろしく候、夫より安田川六文

の渡しちん、安田むら浦町

あり、神の峯寺へ三十八丁の

三月八日

安田川

庵

塚あり、八丁小道行庵あり、

(88)

打戻りの場所二付、此庵に

荷物を預ケ置、合印受取参る

なり、預ケちん壺人まへ式文宛、此庵

迄の道迷道多し、随分念入

別而問て行べし、此庵の

まへに茶屋あり、此所にて暫時

休息致候所、折節新庄小田戸左衛門殿

二廻り合申候、戸左衛門殿ハ下向二付

わかれ申候、先ツ三十丁の坂也、

誠二雨天二付御山きり二

(下写真参照)

つゝまれ跡先わかり兼、潜

雲の上人二成事かと申候、

高山にて冷々敷御山之上ニ

茶やあり、素麵抔たべ申候、

(89)

中々自由成事と皆々申候、

第二十七番  
神峯寺

△神峯寺 八里半

本尊十一面観音

参詣、夫より庵迄戻り荷物

受取、夫より少し行小川あり、

壺文渡賃、外ニ小川数々有

新庄村小田  
戸左衛門



小滝もあり、是より道よし、

大山坂、是を越て茶やあり、

壺り半行からの村壺り行、

(唐の村)

いほき浦角や勝左衛門二泊

米百式文、木賃十式文、ふとん

十八文、今日八ツ時より天気二

相成申候、此所至而よろしく

(伊尾木山)

○九日松原を通りいおき

(安善川)

川六文渡し賃、又あき川

三文渡しちん、赤岡町過て

(野市村)

のいち村、大谷村、併此辺

宿やなし、日暮の節ハ百性やへ

乞請宿を借ると申事也、

第二十八番  
大日寺

△大日寺 一里

本尊大日如来

夫より八丁下り麓ニ茶や

あり、団子汁の名物あり、

此所にて皆々髪結申候、此

茶やへ八丁も先の村々より

留メニ参り申候、夫より五丁位

行、物部川とて大川あり、

物部川

団子汁

船渡し六文、夫より三丁行、

(五)

いわ松村福田や兼平二泊、

米百文、木ちん十式文、ふとん

十六文、○十日壱り行、

三月十日

第一九番  
国分寺

△国分寺 一里半

本尊千手観音

夫より滝本村過て坂あり、

此峠より高知城下見へるなり、

第二〇番  
善養寺

△一之宮 一里半  
(善養寺)

本尊阿弥陀如来

参詣、宜敷宮居也、はゞ長し、

茶屋二軒あり、夫より鳥井元

道標

まで出ると記石あり、右遍路道、

左り城下道と有、但城下へ出る時ハ

(六)

半道計りの廻り二成と申事

なれ共見物二行、入口御番所

往来改あり、町へ入なり、夫より

川土手廿丁計行舟渡しあり、

四文渡賃、此所入海と相見へ

宜敷川なり、夫より八丁登り、

番所  
往来改め  
高知城下

第二一番  
竹林寺

△五台山 一里半  
(竹林寺)

本尊文殊菩薩

夫より八丁下り茶屋あり、直二

入海を渡る、四文渡し賃、夫より

川端を壱り程伝ひ行なり、

扱今日ハ金毘(金比羅)ら二て当地城下

御家中、町人皆々川舟を

(七)

催し、参詣之人々賑々敷

事也、夫より此川を行つめ

右へ取、山道へ入なり、坂も

あり、夫より御山へ登る、廿五丁也、

第二三番  
禪師峰寺

△禪師峰寺 二里

本尊十一面観音

連理の玉椿

参詣、壱丁程下り、連理の玉椿

あり、夫八丁下り浜道なり、

麓十市村貞右衛門二泊、米

百文、木ちん十六文汁共、ふとん

廿文、此村の日付至而六ツケ敷候

故ハ、庄屋所へ参り候所宿の手

札無てハ杯申候、込入申候、宿二も

存じ不申事二候由語申候、

三月十二日

○此村の久米右衛門より切紙を出ル也、

⑦

○十一日出立、道よし、松原海辺

なり、今日四ツ時より雨天ニ

相成申候、忝り行、ござ町、

此町へ家中と相見へ申候、茶や

等なし、此所より入海、舟渡し有

三文の走りなれ共、渡守脇の

船持と言合て入り申候、次第ニ

雨ハ大降りニ成、尚又夫ニ付込

百文と言ても致し方ハ無之

次第也、先十文ツ、ニて渡し申候

八丁の渡し、渡り上り二町あり、

十五丁行、

第三三番  
雷驟寺

△高福寺

(雷驟寺)

二里

本尊薬師如来

⑧

参詣、忝り半行、川渡しあり、

八文渡賃、八丁行、秋山村、

第三四番  
種間寺

△種間寺

二里

本尊薬師如来

当地、御寺三丁程登り打

仁淀川

戻りの場所なり、麓ニ

茶やあり、雨ハ次第二大降ニ

相成、道ハすべり込入申候、

夫より森山村、(私岡村) 広岡村迄

壺里位有、(仁淀川) 淀川と言大川

あり、但ニウトウ川とも言也、

渡賃八文、夫より十式丁行て

高岡村、此所より清瀧へ

打戻りの場所なり、

⑨ 夫故此所へ宿を取、札所へ

参詣致申候、

第三五番  
清瀧寺

△清瀧寺

二里半

本尊薬師如来

夫より高岡村へ戻る、宿名まへ

中村屋新右衛門二泊、米百式文、

木ちん廿四文、汁共ニふとん

三月十日

廿文、○十二日出立、雨天ニて

道ハすべり込入申候、供養介事

挟箱を枕ニ大の字成に、土手

端へはつたりと横寝致し、

東西を失ひ暫ク脇も立さかり

しに、漸々立上り、誠ニ

脇ハ青洲アヲの川ニテ、無難候所を

(7)

歎び申候、是より念入通り申候、夫より

かけ樋の橋ヲ通りて上下

三十六丁の坂あり、夫より下り

て宇佐村、

此所より船ニのり井の尻へ着

船らん四文定、此所ニ宿ヲ相

定置、荷物を預ケ青龍寺へ

廿五丁の打戻りなり、

おわけ杯すまし御山へ登る所

余程の高山之様ニ相見へ候所

御寺江下り込、平地なり、

第三六番  
青龍寺

△青龍寺

十三里

本尊不動明王

参詣、打戻り、今日大雨ニて

(8)

最早九ツ時ニ候へ共、是迄斬々(漸々)

式里半参り申候所、彼是

難洪ニ付、此所井の尻村

好平ニ泊、米百文、木ちん

十文、ふとん廿四文、明朝船ニ

乗積りニ致申候、外皆同行衆ハ

井の尻村

皆々渡れ候、私共計

天氣ニ成

三月十三日

一宿仕候、〇十三日、七ツ時

船ヲかり三里の間入海渡る、

此故ハ、土州八坂八浜の難

所を通らず、此所ハ大師様

舟御免之所と申事ニ而大方

のり申候、船賃三十文宛、老艘

定十六人として、四百八十文之由

(9)

二候へ共、私共雨催様ニ而、今津

式人同行と都合五人ニ而老艘

かり切、賃三百文、扱夜七ツ時ニ

乗、明六ツ時ニ横浪江着船

此所宿不自由ニ付其心得之

事、夫より壺里行、仏坂

上下三十六丁之坂なり、

下りニ自然石の不動明王

自然石の不動明王

(種田村)

あり、夫よりかうた村、又鳥越

とて小坂あり、今ざいけ村、

(須崎村)

スサキ村、此所よろしき

町也、当町はなれに川あり、

(角谷坂)

ちん四文、夫よりかどや坂とて

上下三十六丁あり、少し行て

横浪

峠の冷水

あわ村、焼坂とて又三十六丁

之坂、此分別していたしく、

峠の右之方ニ冷水あり、くれ(久礼村)

村、此町を左り二見て行、

そへみ、ツ坂、登り五十丁、下り八

八丁の坂也、此峠ニ庵あり、

此所ニて雨天ニ付、キリニツ、(霧)

ミ跡先わかり兼申候、斬々(漸々)

麓迄おり、とこなへ村、十八丁

行、かげの村、壱兵衛方ニ泊、(影野村)

米百弍文、木ちん十弍文、ふとん

十六文、此所油とてハ一向ニ無

こへ松ニて行燈所明し申候、

○十四日、天氣宣敷候へ共、此間

よりの長雨ニて道すべり

込入申候、此所より弍里半位行て

五社への川渡し有、行戻り

八文、夫より弍丁行、二井田、

△二井田五社 (泉寺) 廿二里

不動明王

観音仏

本尊阿弥陀如来

薬師如来

地藏菩薩

三月十四日

右五ヶ所参詣所あり、夫より

茶やニておわけ杯済、まへの

川江寄り渡りて大師堂へ

十三丁あり、夫江札納、夫より

久保川村と言町也、夫より小坂

谷川多し、又此先二片坂

とて、上りわすか下り大キの

長坂なり、いちの七村、立花(市野郷)

川村、こぼしの川村、かいな村、(峯ノ川村)

こぐろの川村、此間ふばわら坂、(不磨ノ川村)

くまい村、此間坂あり、イヨキ村、(熊井村)

松屋慶二郎ニ泊、米百六文、木

賃十弍文、廿文ふとん、此所庄や

所遠し、○十五日出立、熊越へ

坂を越てふしなわ村、しらいし、(藤縄村)

中つの村、佐賀町五社より

此所迄六里、佐賀町はなれ

に川有、橋なし、念入

渡り申候、夫よりいよき谷とて

山路谷川多し、ウキツ村、(浮輪村カ)

松原通り海端へ出行也、

△竹島村、たけ嶋村、此所へ

三月十五日

伊与喜

四万十川

四万十川の渡し場なり、

御高札まへ、八文定、誠二四国一

之大川なり、渡り船着、さね(美崎村)

崎村、宿あり、此所少し

行、船ちん式文渡し有、

夫より天満と言所あり、社

あり、間崎村宮崎利左衛門二泊、

米百六文、木ちん十式文、ふとん

廿文、○十六日日出、雨天、道あしく

庄や所遠し、迷道多し、

つくらふち村、夫よりいつた坂(伊豆田坂)

三十丁坂あり、下りて一の瀬(津蔵刺村)

村、○此まへ佐賀村よりは迄八里と申

所なり、大雨、

三月十六日

真念庵

扱此村二真念庵と言大師(84)

堂あり、是より足摺へ七里、

但シさゝや山へかける時者、

此庵に荷物を預ケ足摺

より打戻り之場所なり、又

月山へ懸る時ハ荷物を持

行也、夫よりかや浦、かいかけ村(加江浦)

此所入海也、浜辺の浪の引(舞掛村)

間通り行所もあり、くもゝ村、(久百々村)

山道、おほきむら、此間海辺、(天岐村)

過て山路、いぶり村、少し宛の(以布利村)

小村あり、誠二小坂を登り

下り数を知らず、久保ツ浦、此(津津浦)

所より御札所へ式里也、此所(85)

善助二泊、米百式文、木賃

十式文、ふとん廿四文、○十七日

雨天、つる村、大たにむら、(津呂村)

併七里の間に村名ハ(天谷村)

多しといへ共屋少し、其

心得の事、大たに村、併

今日四ツ時より天気二相成申候

三月十七日

第二八番  
金剛權寺

△蹉跎山、十三里、(金剛權寺)  
月山へ九里也

本尊千手観音(鎮守)

当寺チン守、末社多し、

至而大地なり、門前に

茶堂あり、是にはん(半鐘)

鐘あり、此かねを叩くと

当寺七不思議の案内者

出ル也、但シ何十人ニても四十文

半鐘

宛 私共ハ割合ニして八文ツ、

(86)

二出ス、扱七不思議の事、

一龍灯の松、天灯の松、

ユルギの岩、汐満干の石、犬石、

夜々龍馬の喰根笹、地

獄の穴、金石、大師一夜建立

鳥井石、正九ツ時に雨

降所、亀呼所、沖ハ大海

荒浪磯又ハ小石に相懸ケ、

山の出端なり、此所ニて御

亀様と皆々高声に

呼に、大小ニツ浮出、しはらく

してしづむ、又壺ツ出、是も

しばらくして見へす、上ヨリ

見れハ黄の色に亀甲見ゆる也、

(87)

扱私共八月山へ懸るニ付、御寺

より左り取行、但シ笹山江掛

寺山への道のりハ十二里、又

月山よりの道のりハ十三里の

記石、御札所門前ニあり、尤

今津同行ハ笹山へ掛るとの事ニ

付、此所より名残をおしみ

わかれ申候、是より月山への

順道、伊左村宿あり、小坂

山道也、松尾村、山道浜辺也、

足摺より三り行て入海、船

渡し八文、直ニ清水村、此所

宿や不自由也、米杯も不自由

由の由ニ而込入申候、右ニ付無扱

五丁行、コエ村迄行宿を乞

(88)

候所、是又清水よりハ小村

ニ付米なし、やうく壺軒

善人有之、黒米式升無心致し

七十式文ツ、宿も一向ニ有之ニ付

無扱庄屋所へ参り宿之義申候

所、随分ふれ付ニ而、壺軒へ老人

宛ならてハへんろハ宿や不付

(遍路) (宿屋)

と申、甚込入申候、彼是致段々

壺軒宛乞請見候所、いゝだや

亭主と見へて、扱々御難渋

之筋と相見へ申候、私方小供

多くても宣敷候ハバ御出て被成と

申候所、皆々カンハツニ雨を得たる

(心地) 此所、是ぞ大師様の御かげと

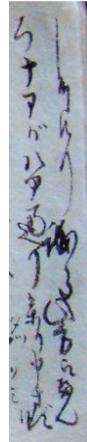
歛無極、扱右の宿へ参り、右の  
黒米を搗、漸々安堵の思いをな

しにけり、誠ニ此方江へん

(下写真参照)

るナアガハや通り参り申さず候、

乍去私共ハ御崎の浦龍串



の名所見物致度計ニ此方へ

参り申候、コエ村十介ニ泊、米ハ

右ニ有之、木ちん十式文、ふとん廿文、

○十八日出立、浜辺へ出る、満汐の

時ハ岩の根にとり付行所もあり

難所也、此所少し行て道式

ツあり、満汐の時ハ山道へ上る、

干汐の時ハ浜道へ出る、私共ハ

道印一向に知れ不申候ニ付、浜

道の方へ出申候所、まん悪敷満

汐ニて通れ兼申候、誠ニ磯荒岩、

沖ハ唐海壺丈計の大浪

⑩

岩へ打音雷よりもすさまじく、

如何セんと汐待致候所、追々

同行衆十人計見へ寄合

荷物杯取合、漸々汐の引

間を通り難所をぬけ申候

龍串の名所  
四十一景

御崎村、町あり、此所沖ニ

龍串の名所あり、四十式景

あり、誠ニ今ハ損じ名のミ

にて、見物のかにも無御座候、

先ツ屏風山、千疊敷、不背山、

水船石、座頭の昼寝石、梅の枯木、

布引滝、猿石、匏石、手丸石、

唐獅子石、兜石、蛙いし、

梅の花石、仙人碁盤石、竹石、

⑪ 鯉の滝登り、桜の浜、

四十式景の内右荒方形チ

有之、夫より浜道行、横おき

村過て、川口村、官敷町あり、

此村ニて米を求、風呂敷に包ミ

持参り申候、小川多し、坂壺ツ

越て、(足摺) 足すりより是まで

六里りの所也、夫より大坂を

三ツ越て浜辺江出る、貝

の川浦、家村あり、此辺の

小村皆漁父と見へて鯉魚を

取捕る所也、夫ニ付宿とてハ

一向ニなし、又近頃行

鯉漁

抱瘡流行

瘡流行ニ付、諸辺路ハ(木屐)コヤ

(82)

をかけ、是ニ留るとの庄や

よりのふれと(触)の事、今日いまだ

御日ハ八ツ時ニ候得共、先々ニても

如斯なれば致方なくニ依而

何卒此所ニて一宿仕度と

段々宿を乞候へ共、漁家ニて

中々宿進ハ一向ニ無之、米ハ随分

有之、され共宿ニさしつかへ込入申候、

如何センと迷居候所、是より跡

(三崎浦)御崎之浦より土州崎の浜三人

土佐の女中連

同行女中連とは迄道連ニて

参候ニ付、此人江相談致候所、此人ハ

同国ニて知る人もあり候由ニ付、

直様宿ハ御座候、兎や角與

(83)

致居候所、土州の同行心配ニて

宿御座候、併又善人御座候而

外ニも宿具候様との事、誠ニ

式軒共ニ難断次第ニ相成、

却而是ニ込入申候、幸新町

の女中同断米屋竹三郎同居

候ニ付、是を彼ノ宿老軒分へ

遣し申候、扱此三人無心お言懸

込入申候、錢少し志し申候、竹三郎事

何卒慈悲に相成事ニ付、

連戻る積ニ致し申候、右ニ付

此貝の川浦ニ泊る、田原屋

善助、米百四文、善言ニ付木ちん

なし○十九日雨天ニ相成申候、

此所ヨリ月山へ式里也、山道谷

川多し、深山へ入込雨天

ニて込入申候、

(84)

○本尊三ヶ月天

名あわれありて御堂なしと

言、御山ニも家なし、雨ハ大

降ニ成込入申候、めくら坂三十丁

の坂也、此間に村々多しと

いへ共家少し、暮六ツ時ニ

漸々寺山の麓迄行候所、

何分くらかりニて前後わかり兼

申候、牛の瀬川渡り船ちん

式文、(宿毛町)スクモ町へ出る、麴屋

利介ニ泊、米九十八文、木ちん、汁共ニ

廿八文、○廿日天气成、右之宿へ荷物

三月二十日

牛の瀬川

預ケ、昨日暮二及び札納らす、

今朝又々牛の瀬川を渡り

寺山へ参る、道よし、足摺を

打戻りの人ハ此町ニ而出合所也、是より

⑧ 壱里半行、

第三九番  
延光寺

△寺山

七里

本尊薬師如来

参詣、半り計戻り道ニて

いり物御撰持あり、夫より

宿へ戻り荷物請取、壱里行、

土州御番所宿附納メ戻ス

なり、是迄土州十六箇所

札所相済、夫より松尾坂上下

五十丁之坂なり、尤廿五丁

土佐・伊予  
国境

目二十佐国、伊予国御境有、

東伊予宇和島領なり、

坂下りて小山村御番所ニて

往来御改御切手出ル也、写、

遍路何人、脇道無用、七日切

午三月廿日 久野安兵衛

⑨

東田番所

右切手モライ、殊ニ御念入之御挨拶

あり、万一宿ニ差つかへ候砌、此切手

役場江持参致、宿差付モラウ

事との仰渡されあり、夫より広

見村、但笹山へ懸る人ハ此所

より参詣道あり、是より笹山

迄五りと言事、扱又くわんじ

在寺を打戻りニシテ参詣之場所

なり、私共八月山へ懸候ニ付、くわん

じ在寺を打ぬけに参候、

⑩ (王太連村) 城辺村  
うハおうたう村、しやうへんむら、

第四〇番  
観自在寺

△観自在寺

本尊薬師如来

参詣、此村ニ一宿善助ニ泊、

三月二十日

⑪ 米九十六文、木ちん十式文、○廿一日

次御札所稲荷社へ道筋

三ツ有、

一すぢ 難道のり 次へ十三里

一すぢ 中道大がんだう越のり十三里

一すぢ さゝ山越のり十四里半

右大がんだう越ハ大坂ある故、

私共ハ難道のりへ出申候、

夫より四五丁行、下灘すげ村

にて小盆めしせつたい

あり、山坂谷々多し、家

も折々あり、式里半行、

(奥宿村)奥かしわ村、此所にてわらび餅

五ツ撰持あり、二三丁行、

かしわ村より川原にて此村中より

赤飯、香のものせつたいあり、此

川を伝い直三柏坂とて登り

廿丁計、下り式里余あり、

山の峯を行也、下りて

(正畑地村)かミはたじ村、此所明神の

拝殿にて飯、ミそ汁、膳ニすへ撰持

あり、世話方女中計也、化粧杯致、着類

其外器等近頃の御撰持なり、

此所五六軒家あり、是より道よし、

おわら村大師堂にてあらめ、にしめ

御飯御撰持有、かミ結もあり、

五六丁行、岩松村、町家宜く

(皇鞋)宿多し、此町ニ而小西喜四郎方

にておむし竹皮二包、又わらつ壺足

撰持あり、此所笹屋彦兵衛二泊、

三月十五日 米九十文、木賃十三文、○廿二日

天気宜敷出立、四五丁行、此

近村の久保津村より赤飯セつ

たいあり、夫より宇和島御城下江

宇和島城下

願成寺

入少シ行、遍照山願成寺とて

大師元結懸ケ之古跡也、扱大

橋ヲ越て御番所あり、往来

往來改め

法円寺

入切手御改あり、此近辺ニ

萩の森御寺有之、参詣する

事御法度之旨、是より御家中

通り橋ヲ越て町家へ出る也、

御城見物致し候、茶店多し、

(和)

和霊社

○和霊社江参る、美しき

御宮居也、幸今日御日ニ当り

御祭礼あり、尤居祭りなり、

御能舞台杯御座候、夫より

是よし、此辺吉田御領也、

式十四五丁登りの坂あり、

此峠に常善坊と而大

堂善坊

師堂あり、七度栗の御守

出ル、壹ケ年ニ七度宛実のる

(七)

七度栗のお

守り

栗なり、夫よりいなりへ十五丁、

△(龍光寺)稻荷大明神 廿五丁

本尊十一面観音

御狐の穴

此所ニ御狐の穴あり、此社ニテ

大豆飯、香の物セつたいあり、

汁もあり、是ハ吉田御城下の

町よりの出撰持と申事也、十丁

位行てなるへ村大師堂ニテ

米セつたいあり、夫より

第四二番 仏木寺

△仏木寺

二里半

本尊大日如来

参詣、則村権吉ニ泊、米八十文、

三月二十日

木ちん十三文、十五文ふとん〇廿三日

出立、此辺善言宿多し、

夫より花坂とて上下五十丁之

坂なり、夫より下川村、大橋を

大師木造

渡り庵あり、大師の木像有、

大水の時ニハへんろ道の

明石の大石 白石権現

印より左りへ行事、かいた村、  
いなん坊村、明石村、此間明石  
といふ大石、是を白王権現と

いふ、此石ニハ色々しきひ有、  
御山八丁登り、

△明石寺 式十一里

当寺より八丁下り、うの町有、

よろしき町なり、松葉村、大江村、

夫より東た村、此所ニテ油屋

弁治郎より西條柿五ツ盆に入

上茶ニテ撰持あり、同村ニテ

富田村より小盆飯せつたい有り、

此所宇和島領御番所有、

切手戻シ通る也、とさか村、

此所和宇島、大洲の境あり、

夫より直二戸坂さか二里あり、

八丁登りて下る也、此峠ニ而大洲

の長浜村より赤飯、汁セつたい

あり、それより北たじ村、此間ニ

小川二瀬あり、大洲城下入口ニ

新町万屋方助ニ泊、米壹升

八十式文、木賃十五文、〇廿四日

雨天ニ相成申候、御城下町ヲ通り

御城の下ニ出る、川を渡り老文、

中村町、此所の道ニ小キ橋あり、

第四三番 明石寺

西条柿

御番所

往来改め

宇和島・大洲境

大洲城下

三月二十四日

由らい有、新谷御城下町通る、  
いづミがたう坂、内の子村、町左ハ  
大道右ハ辺路道、過て川渡り  
チセ坂、むらさき村、此間中戸坂、  
夫より直ニ大瀬が谷ニ懸る、

川端を伝い行、谷合計り

通り行、九里の間誠ニたいくつ

する山々川々也、吉野川村、

善右衛門ニ泊、米九十文、木ちん十二文、

○廿五日、天氣ニ相成申候、此辺

伊与半紙出来る也、皆紙すき

と相見へ申候、出立川のほり村、

夫より梅津村、下たど村、中たど村、

八幡宮あり、上たど村、過て三島

明神宮、うずき村、にめう村、

爰にかつらき明神、橋渡り

大師堂あり、過てひわだ坂

とて上下五十丁坂あり、此坂

峠より久間の町菅生山見へる、

此所大洲松山の境なり、是を

下りて熊の町よろしき町

なり、此所へ荷物を預ケ宿

相定置、岩屋寺へ打戻り

の場所なり、尤烟の川まで

荷物ヲ持行、此所へ宿ヲ取置て

行人もあり、此方道少シ近シと申

事ニ候へ共、宿不自由ニ付、且又

不案内ニて是迄参り、尚熊町

ニ而宿やあまり留申、彼是ニ付

熊町へ荷物をおき候、夫より御山へ

五六丁登り参詣

△菅生山

三里

第四四番  
大玉寺

本尊十一面観音

当寺裏門江出打抜ぬけニシテ上下

三十六丁の坂あり、是を下りて

烟の川村宿あり、此所より

三十五丁行て茶やあり、

右参詣道左りハ下向道なり、

此道ニて今津の同行式人ニ廻り

合申候、互ニ無異を語り相歡ひ

申候、夫よりわかれ申候、此下向道より

御山へ登れば難所少しと申

事ニ付、私共ハ下向道より登り

申候、尤参詣道より参る時ハ

大洲・松山境

第四五番  
岩屋寺

行場を本堂より先ニ拝し  
候へ共、下向より参詣致候ニ付、私共ハ  
本堂へ先へ拝礼仕候、

△岩屋寺

六里

本尊不動明王

① 本堂掛造りニシテ靈場上テかそへ

がたし、十六子の橋子此掛

造りの上ニあり、参詣、仙人の像

あり、右手ニ大師様御行被遊候所

あり、是江参り拝ス、扱橋子を

下り、奥の院岩屋不どう、大師

廿一才の石仏、御水あり、開帳セン

六銅、案内者たいまつヲふりて

岩屋屋穴へ入、凡廿間計あり、

亡者ニ水をたむける所あり、

夫より五六丁御山ニ登り行場

堂あり、セリ岩是を上りて

堂あり、山伏居ル、此所ニてわらん

づ杯ぬき、したくをして右手

ニ鉄のくさり式筋あり、男

② 女別と申事也、男ハ左りくさり

と申事、是を登て廿一子の

橋子ニ上り白山大権現

の社あり、夫より下りて岩ニ登り、

高祖大権現、別山大権現有

夫より鉄のくさりを下りて

セリ岩も下りて庵へおりる、

夫より参詣道の方へ戻り申候、

追々日ハ暮、兼而之覚語ニて

熊町宿より灯ちん借用致

候ニ付、先烟の川までやうく

戻り、此所より灯ちんニて

やうく夜五ツ時ニ熊の町

宿や迄戻り申候、茶屋

吉右衛門ニ泊、米七十六文、木ちん

三月二十六日

① 廿式文、○廿六日出立、式り

行、明神村ニ明神坂とて十丁

の小坂あり、此峠より松山、扱又

三ツヶ浜、又小ふじ杯見へる、夫より

えのき町、くほの村、くたにむら、

浄瑠璃村

第四六番  
浄瑠璃寺

② △浄瑠璃寺

五丁

本尊薬師如来

第四七番  
八坂寺

△八坂寺 半里  
本尊阿弥陀如来

第四八番  
西林寺

△西林寺 廿五丁  
本尊十一面觀音

第四九番  
浄土寺

△浄土寺 十五丁  
本尊釈迦如来

第五〇番  
繁多寺

△繁多寺 廿丁  
本尊薬師如来  
御堂より五六丁行てとう  
打の地藏とて堂へ出てヲ  
打つけ行也、夫より十四丁  
位行

第五一番  
石手寺

△石手寺 道後へ 八丁  
本尊薬師如来  
当寺大地にして御堂美敷  
金石もあり、末社多し、  
此御寺にて八十八ヶ所靈場  
御札納仕舞難有安意仕候  
尚道行中、道中無恙目

出度奉存候、御くッ荷たわら

納、此石手寺より八丁行

道後町岩村屋忠次兵衛方へ

留る、直様湯治仕候、○廿七日、

○廿八日、○廿九日、○晦日ツマ

○四月朔日、○五日之間

湯治仕候、土産物等相求、○二日

早朝出立、湯月八幡宮へ

参詣、且○湯神社、夫より

町を通り半り行、松山御

城下見物、三ツヶ浜三津浜へ壺りの間

道よし、○大山寺様 江御

礼に参詣、此所之茶屋にて

名物蕨 蕨 名物こんにやくたべ申候、誠ニ大サ

拍子木の如くにて御座候、夫より

三ツヶ浜奴和屋ぬわや十蔵方へ戻り

揚切手戻ス、幸新・市弥太郎

船参居候ニ付、此便船をかり

申候、○四日当地 江着船、目

出度歎無極安意致候、

四月四日 柳井津着

二月七日出立

四月四日着岸

ベ日数五十六日